

第二一四回ペン川柳会

令和四年三月二十二日

お題 「三」

■ 松谷 (零門)  
れいもん

三ツ星もかなわないのは母の味  
傘寿超え三度の食事モリモリと

■ 八木 (明迷)  
めいめい

目薬を3階からさす西諸国  
3歳が好きな言葉の独裁者

■ 大野 (だし)

三つ指をついたはずだが知らん顔  
コロナ禍に高値追いかけて三隣亡

■ 西川 (酔雅)  
すいが

八十路入り出番激減三文判  
三振の夢で目が覚め寝不足に

■ 三春 (火酒)  
ウオツカ

起業して三日天下の亭主面  
三つ巴大統領の攻防戦

■ 稲宮 (井波)  
いなみ

天女そばあと三寸で夢途切れ  
酒肴コロナ退散三次会

■ 塚田 (拿々)  
だだ

落ちこぼれ三井三菱縁は無し  
三次会ふらふら乗って二日酔い

■ 曾山 (酪帝)  
めいてい

今八十路三つ子の魂あやかろぞ  
プーチンよ三次大戦やめてくれ

■ 山縣 (安兵衛)  
やすべえ

一二の三梅桜の次居酒屋だ  
古いよね三井三菱三なすび

■ 安藤 (晃二)  
てるつぐ

栄一の三極の里カトマンドウー  
春の小川柳の芽揺る三月来

世話人 塚田 實 (拿々)  
だだ